

台灣日本語文學報

34

【刊行の辞】

- 曾 秋桂 『台湾日本語文学報』34号刊行序文 1

【論 文】

曾 秋桂	通過儀礼として見た村上『神の子どもたちはみな踊る』論 —トラウマと向き合う物語の装置—	3
内田 康	回避される「通過儀礼」—村上春樹『羊をめぐる冒險』論—	27
吉田妙子	『パン屋〔ゆ／再〕襲撃』と『パン屋を襲う』 —失敗した通過儀礼と70年代の亡靈からのメッセージ—	53
戸田一康	『夕べの雲』における「非日常化」—庄野潤三が確立したスタイル—	77
王 佑心	「文化翻訳」の角度から読む永井荷風『アメリカ物語』 —一人の外遊者の異文化体験—	103
賴 雲莊	太宰治『トカトントン』論—アイロニーとしての「幻聴」—	127
黃 智暉	都賀庭鐘と曲亭馬琴の描く不遇の英雄 —輪廻転生と海外進出をめぐって—	153
賴 錦雀	共起表現から見た日本語の「春・夏・秋・冬」 —中国語との対照比較をかねて—	177
林 青樺	「(し) そうだ」の意味に関する一考察—否定形を中心に—	203
落合由治	ジャンル性における引用表現 —新聞社説における表現構成とその機能—	227
黃 鈺涵	非断定的表現「そうだ」の語用論的機能	253
吳 秦芳	話し言葉における「けど」の考察 —「形式」、「語用論的機能」、「ポライトネス機能」に注目して—	279
深尾まどか	「けど」の終助詞的用法の機能—コーパスに基づく分析を中心に—	305
董 莊敬	日本における能力観の変遷からみたポスト近代型能力と再帰性 —労働と教育の視点から—	331
中澤一亮	ソーシャルネットワーキングサイトを活用した作文読解練習： Facebookを例に	355
黃 士瑩	台湾人及び日本人における潜在的な意見の不一致について —女子大学生を対象に—	381

【活動彙報】

- 2013年7月～12月例会要旨および活動報告 407

2013年12月
台灣日本語文學會

關於 “(shi)soda” 句意之探討

—以否定句型為中心—

林青樺

淡江大學日本語文學系助理教授

摘要

本論文探討「(し) そうだ」與否定助動詞「ない」相互結合時，會以什麼樣的形態出現，以及各否定句型所持有的共通點以及相異點。首先，先確認「(し) そうだ」之肯定句型的句意。其結果得知，「(し) そうだ」是依據不同用法來表示事象發生的〈前兆〉、〈預想〉、〈依據屬性之推測〉，其共通句意為《事象發生的可能性》。另一方面，「(し) そうだ」的否定句型之中，有表示〈預想〉〈依據屬性之推測〉等《事象不發生的可能性》的「一な(さ) そうだ」和「(し) そう に／も ない」，而除此之外，也有否定「(し) そうだ」的「(し) そう ではない」，其句意為〈推翻預想〉。透過本論文的考察結果得知，雖然「一な(さ) そうだ」和「(し) そう に／も ない」在表達《事象不發生的可能性》這一點是相同的，但「一な(さ) そうだ」所表達的可能性之可信度低，而「(し) そう に／も ない」則是表達可信度高的可能性，因此可得知「一な(さ) そうだ」與「(し) そう に／も ない」所表達的《事象不發生的可能性》之程度是不同的。

關鍵字： “-shisoda” 否定句型 可能性 否定的焦點

A Study of the Semantic Analysis of “(shi)soda”: On the Negative Sentences

Lin, Chin-hwa

Assistant Professor, Tamkang University, Taiwan

Abstract

This paper describes the meaning of “(shi)soda” that expresses anticipation of event occurrence in modern Japanese. The conclusions are as follows.

- (1) First, it was shown clearly that the meanings of affirmative sentence of “(shi)soda” are [just before], [anticipation], [guess by characteristic], and the common meaning of those is “possibility of event occurrence”.
- (2) The negative sentences of “(shi)soda” as “-na(sa)soda” and “(shi)so ni/mo nai” express “possibility of event un-occurring”, including [anticipation] and [guess by characteristic]. In addition to the meaning “possibility of event un-occurring”, the negative sentences of “(shi)soda” also means [anticipation reversing] by the negative form “(shi)sodewanai”.
- (3) “-na(sa)soda” and “(shi)so ni/mo nai” are common to the meaning “possibility of event occurrence”, but the degree of the possibility is not the same. The reliability of possibility means by “(shi)so ni/mo nai” is higher than “-na(sa)soda”.

Keywords: “-(shi)soda”, negative sentences, possibility,
focus of negation

「(し) そうだ」の意味に関する一考察 －否定形を中心に－

林青樺

淡江大学日本語文学系助理教授

要旨

本論は「(し) そうだ」と否定が組み合わされた時に、どのような形式が用いられ、それぞれどのような共通点と相違点を持つのかを考察したものである。まず、「(し) そうだ」の肯定形の意味を確認した。その結果、「(し) そうだ」は用法によって事象生起の〈直前〉、〈予想〉、〈属性による推量〉といった《事象生起の可能性》を表すことが明らかになった。一方、「(し) そうだ」の否定形は、〈予想〉、〈属性による推量〉といった《事象不生起の可能性》を表す「－な(さ) そうだ」と「(し) そう に／も ない」もあれば、「(し) そうだ」を否定する〈予想の覆し〉を表す「(し) そうではない」も見られる。そして、「－な(さ) そうだ」と「(し) そう に／も ない」は《事象不生起の可能性》を表わす点で共通してはいるが、「－な(さ) そうだ」は確信度の低い可能性を表すのに対して、「(し) そう に／も ない」は確信度の高い可能性を表す形式である、ということを指摘した。

キーワード：「(し) そうだ」 否定形 可能性 否定の焦点

「(し) そうだ」の意味に関する一考察

—否定形を中心に—

林青樺

淡江大学日本語文学系助理教授

1. はじめに

現代日本語においては、動作・変化の兆候や予想を表わす表現として、「(し) そうだ」が使われる。

- (1) この空模様では午後雨が降りそうだ。
(2) あの人は仕事ができなさそうだね。

「(し) そうだ」について、日本語記述文法研究会(2003)は、「話しがその事柄を徵候との関連においてとらえていることを表す」というのが、「(し) そうだ」の基本的な意味である」と説明し、否定形については、「動詞に接続する否定の接辞『ない』には一般に接続しにくいが、接続する場合には、『さ』をはさむときとはさまないときがある。」と述べ、次の例文を挙げている。

- (3) この分じゃ、明日は傘はいらなさそうだね。
(4) あの店員は、気が利かなそうだ。

しかし、「(し) そうだ」の否定形には、(2)(3)(4)の「ーな(さ) そうだ」だけでなく、次の(5)(6)のような形も見られる。

- (5) どうもこのマンション、使えそうもないなと純子は思つた。(赤川次郎『女社長に乾杯!』)
(6) はっきり理由を示さない限り、到底油井は納得しそうではなかった。(吉行淳之介『砂の上の植物

群』)

「(し) そうだ」の肯定形については、先行研究では様々な観点から考察が行なわれてきたが、否定形に関する考察はまだ十分ではないと思われる。本論は、「(し) そうだ」の否定形を中心に考察を行ない、各形式にはどのような共通点と相違点が見られるのかを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

「(し) そうだ」の否定形に関する先行研究として、森田富美子(1990)、豊田豊子(1998)、菊地康人(2000)、川嶽信恵(2002)が挙げられる。

まず、森田(1990)は「—そうだ」の肯定形の用法を「様態」「推量」「予測」「寸前」「形勢」「非実」の六種類に分けた¹。そして、「(し) そうだ」の否定形については、「瞬間動詞が語基になっている[寸前]の意味を否定する時、あるいは、可能動詞が語基になっている[推量]の意味を否定する時などに多く用いられている」と指摘している。各形式とそれぞれの使用状況をまとめると、次の表1になる。

¹ 森田(1990)は「—そうだ」(形容詞・動詞につく)の肯定形の六つの用法を以下のように説明している。

- ① [様態]：話者がある物事につき、外見から(=視覚的、聴覚的に)判断して、そういう様子であると述べる。
- ② [推量]：話者がある事柄につき、そうであろうと主観的に推量して述べる(えん曲表現を含む)。
- ③ [予測]：話者がある事物につき、将来そういう状態になるだろう・そういう事態が起こるだろう・そういうことをするだろうと予測して述べる。
- ④ [寸前]：話者がある事物につき、そういう状態になる・そういうことが起こる・そういうことをする寸前であると判断して述べる。
- ⑤ [形勢]：話者がある事柄につき、一般的な情勢からいって、そういう形勢にあると判断して述べる。
- ⑥ [非実]：話者がある事物につき、実際はそうではないことを知った上で、比喩的に、あるいは、誇張して述べる。

表1

形について	使用状況
①「…そうもない」	①が最もよく用いられ、②がそれに次ぐ。どちらも「望まれている状態が生じなくて残念だ」というニュアンスをもつ。ただし、①のほうには、話者がそのことを慨嘆する気持がより強く含まれる。
②「…そうにない」	
③「…そうにもない」	一般的にはあまり用いられない。
④「…そうではない」	感情を交えず、「その様子がない」ことを淡々と述べる場面で用いる。ただし、このような場面はあまりない。
⑤「…なそうだ」	ほとんど用いられない。

(筆者が森田(1990)の記述に基づいてまとめた。)

森田(1990)の考察では、「(し) そうだ」が否定を表わすときなどのような形で用いられ、どの形式が頻繁に使われるかは明らかになったが、各形式の違いに関する考察が十分だとは言えず、さらに詳しく考察する必要がある。

ところで、「一な(さ) そうだ」と「そうにない」の両形式の相違に関して、豊田(1998)で興味深い指摘がされている。豊田(1998)は、「(し) そうだ」の否定形は「そうに(も)ない」が大勢で、「なさそう、なそう」という形も使われると説明し、「この動詞に接続する際の二様の用法は、『そうだ』は現在の様態からの推測の意味を表すが、動詞では予測性があるものが多いので、否定で『そうにない』が多く使われ、眼前の様子が強調される場合には形容詞に接続するものと同じ『なさそう』も使われる」と述べている。すなわち、「一な(さ) そうだ」は目の前の様子に重点が置かれ、「そうにない」は未来の予測を述べる形式である、ということになる。しかし、次の(7)のように、目の前の様子からの推測であるにも関わらず、「一

なさそうだ」だけでなく、「そうにない」も使えるため、果たして両形式が目の前の様子と未来の予測という点で異なっているのか疑問に思われる。

- (7) a (空港で) 出国手続きが煩雑で、すぐには出発できなさ
そうだ。
b (空港で) 出国手続きが煩雑で、すぐには出発できそ
うにない。

一方、菊地（2000）は、「(し) そうだ」の否定形の各形式の違いは、話し手が〈次の絵〉をどのように描いて事態を述べるかということにあるとし、「(し) そうだ」の否定形の中で「—そうにない」の使用頻度が最も高いことを指摘している²。詳しい説明は次の表2のようにまとめられる。

表2

「(し) そうだ」の否定形	意味
降りソウに (は) ない 降りソウもない 降りソウにもない	《〈次の絵〉として「降る」図はまず思い描けない（そういう状況である）》意で、たとえば空に一片の雲もない快晴の場合などに使うのがふさわしい。
降りソウで (は) ない	《「降りソウである」か否かというと、否である》意で、「降りソウダというわけではない」というのに近い。
降らな (さ) ソウダ	《〈次の絵〉として「降らない」

² 菊地（2000）の〈次の絵〉というのは、事象がまだ現実のものとなっていないが、それが現実のものとなる次の局面のことを指している。

	という図が思い描ける》意で、たとえば、空を見て、快晴というわけではないが「この様子なら、まあ降らなソウダ」と言ったり、天気図を見て「明日は降らなソウダ」と言ったりするような場合に使う。
--	--

(筆者が菊地 (2000) の記述に基づいてまとめた。)

しかし、「降る」図が思い描けないという「降りそうにない」と、「降らない」図が思い描けるという「雨が降らなさそうだ」は具体的にどのような違いがあるのかは明らかになったとは言いがたい。

また、川嶌 (2002) は、事態を判断するときに用いられる知識という観点から「(し) そうだ」を考察し、「ナサソウ」の場合は、事物のほうに備わっている性質を問題とするのに対して、「ソウニナイ」は、事物にそのような性質があるかどうかは主たる問題ではなく、話し手がその事態を予測することによる推量的になると指摘し、次の例文を挙げている。

- (8) a みんなはビールが足りなさそうだ。
 b ?みんなはビールが足りそうにない。
 c このおまかせコースではビールが足りそうにない。別に注文しておいたほうがいいだろう。

(川嶌 (2002))

(8) a と (8) b の判断の根拠は、「みんなの表情」といった「足りない」と感じる主体にそなわった様相である。一方、(8) c は「ビールが足りない」という様相を呈する対象が示されていないため、「予定したよりもビールを飲む人が多かった」など、その場の状況が判断の根拠として、話し手が、「しばらくのちにビールが足りなく

なること」を予想する判断であり、「ソウニナイ」が適格になると説明している。果たして「ナサソウ」と「ソウニナイ」の両形式の違いは、対象または事物に備わった性質とその場の状況によるのであろうか。次の例文を見ていただきたい。

- (9) a 彼はそんなひどいことを言わなさそうだ。
b 彼はそんなひどいことを言いそうにない。

(9) a と (9) b はその場の状況ではなく、どちらも「彼」に備わった性質による判断であるが、「ナサソウ」も「ソウニナイ」も使えることが明らかである。このことから、「ナサソウ」と「ソウニナイ」の判断基準は、事物に備わった性質または状況だけではないということが指摘できる。

以上のように、「(し) そうだ」の否定形の意味用法については、様々な観点から考察されてきたが、各形式の違いは未だに明らかになっていないのが現状であり、詳しく考察する必要がある。そこで、本論は、以上の問題点を踏まえた上で、「(し) そうだ」と否定が組み合せられた時にどのような形式が用いられ、それぞれどのような意味を表し、どのような状況で使われるかを検討し、各形式の共通点と相違点を明らかにしたい。

3. 「(し) そうだ」の否定形について

3.1 「(し) そうだ」の肯定形の意味

「(し) そうだ」の否定形の意味を考察するまえに、ここではまず肯定形の意味を確認しておく。次の例文を見ていただきたい。

- (10) マスカーニで始まってワグナーで終わるカラヤンのアルバムを聴きながら仕度をした。窓の外はいまにも雨が降りそうだ。(江国香織『冷静と情熱のあいだ』)

(11) 先日、第十回向田邦子賞を富川元文さんが受賞した。私と彼が親しいことを知っているプロデューサーから電話で連絡を受けた時、私は本当に嬉しくて涙がこぼれそうになった。(内館牧子『恋の魔法』)

(10) を例にとると、「雨が降りそうだ」は、窓のそとの空模様から、雨がまだ降っていないが、今すぐに降りだしてもおかしくない、という事象生起の直前の様子を表す。このように、(10)(11)の「(し) そうだ」は、「雨が降る」「涙がこぼれる」という事象が今すぐにでも生起する可能性を意味し、事象が生起する〈直前〉を表す。

(12) 「七時半」ぼくは時計を見て答えた。「霧が出てるけど、すぐに晴れるだろう。また暑くなりそうだ」(片山恭一『世界の中心で、愛をさけぶ』)

(13) 何だかよくわからないが、説明すればするほど混乱を招きそうで、私は、「はい、そういうことです」と答えていた。(内館牧子『恋の魔法』)

(12)(13)の「暑くなる」「混乱を招く」は、時間軸から考えれば、目の前で事象がすぐに生起するような状況ではなく、何らかの根拠に基づいて今後生起する可能性があることが予想される。例えば、(13)の場合は、話し手は「混乱を招く」ことが今すぐに生起すると考えるのではなく、これ以上説明したらその可能性が十分あるだろうということを予想するのである。したがって、(12)(13)の「(し) そうだ」は、事象が今後生起するだろうという話し手の〈予想〉を表すと言える。

次の(14)～(16)をご覧いただきたい。

(14) 女王などという、物語に出てきそうな言葉を使ったのが意外だった。(小川洋子『博士の愛した数式』)

- (15) 後日判明したのだが、グローブは未亡人がスポーツ用品店まで行って購入してくれたものだった。どんな打球でも逃さず捕球できそうな美しいグローブを是非に、というのが博士の希望だったらしい。(小川洋子『博士の愛した数式』)
- (16) 「さくらさんは振りそでが似合いそうだ」とみんなが言うので私は「でも、振りそでなんて独身の若い女人じやないと…」と言うと、またみんなが「もう独身だから大丈夫だよ」と言うので私も「ああそうだった。独身だから大丈夫か」とつられて大丈夫だと思い込み、本当に振りそでを着ることになった。(さくらももこ『さくら日和』)

(14) (15) (16) の「(し) そうだ」は、それぞれ「物語に出てくる」「捕球できる」「似合う」の生起する可能性を表すが、その事象は今すぐに生起するという意味ではなく、今後生起することを表わすというわけでもない。このタイプの「(し) そうだ」は時間軸での位置づけが考えられず、事象を生起させる可能性は主体の性質または性格といった潜在的な属性によるものだと考えられる。例えば、(16) の「振りそでが似合いそうだ」は、さくらさんの容姿や雰囲気などから振そでが似合うだろうという推定の意味を表わし、「(し) そうだ」は〈属性による推量〉を表す。そして、動詞の表す事象の生起は時間から解放され、その可能性はいつでも潜んでいるのである。

以上の考察から、「(し) そうだ」は、用法によって事象生起の〈直前〉、〈予想〉、〈属性による推量〉という三つ意味を表わすことが明らかになった。そして、〈直前〉〈予想〉〈属性による推量〉は時間軸における位置付けが異なっているものの、何らかの様子や性質に基づいて《事象生起の可能性》を意味するという点で共通していると言える。

3.2 「(し) そうだ」の否定形の意味

「(し) そうだ」の否定形の意味を考察する前に、まず「(し) そうだ」が否定と組み合せられた時にどのような形式がみられるのかを確認しておこう。ここでは形態的な違いを基準に、現代小説から集めた用例を分類してみると、次の表3の示すように、A～Eの五つのパターンに分けられる³。

表3 「(し) そうだ」の否定形

形式	例文
A. 「ーな(さ) そうだ」	「それは、あの二人が、自殺だけはしなさ <u>そうだ</u> 、ということなんです」 (曾野綾子『太郎物語』)
B. 「(し) そうにない」	議論のずれだけなら、時間をかけて話しあえば調整もできようが、相手が耳を傾けようとしないのだから、一致する時は <u>来そうにない</u> 。(星 新一『人民は弱し官吏は強し』)
C. 「(し) そうもない」	「出来上がっていいくのを現実に目で見ていますと、この艦は、 <u>沈みそうもない</u> ような構造ですね。」(吉村 昭『戦艦武藏』)
D. 「(し) そうにもない」	「……思いつきで、その場しのぎをしようつたって駄目だ。女にも <u>てそうにもない</u> 哲学者の本なんて信用出来ないと言っていたのは誰だ」(山田詠美『ぼくは勉強ができない』)
E. 「(し) そうではない」	はっきり理由を示さない限り、到底油

³ 本論で集めた「(し) そうだ」の否定形の用例を分類した結果、森田(1991)で指摘されたように、形態的には表3のA～Eの五種類に分けることができた。なお、用例収集に利用した小説について詳しくは〈用例出典〉を参照にしていただきたい。

井は納得しそうではなかった。(吉行 淳之介『砂の上の植物群』)

表3に示したように、「(し) そうだ」の否定形はA～Eの五つのパターンが見られる。その中で、否定形のB、C、Dに関しては、先行研究にも指摘があったように、この三つの形式には特に違いが見られないため、本論では同一のパターンとしてとらえ、考察を進めていくことにする⁴。

3.2.1 「ーな (さ) そうだ」の意味

次の例文を見ていただきたい。

(17) バスはまっしぐらに知らない場所に進んで行った。

バスの窓から見える風景は、何か山を削って岩を運ぶトラックが行き交っていたり、人気のない荒れ地だったり、およそ担任はどこを探しても住んでいなさそうな場所であった。(さくらももこ『あのころ』)

(18) 先日、徹吉は進駐兵をはじめて見た。村の入口にジープが止っていて、二十歳をいくらも越えていなそうな三人の米兵が快活にしゃべりあって笑っていた。(北 杜夫『榆家のひとびと』)

(19) 恐らく誰に話してもわかつてもらえないなさそうな理

⁴ 「(し) そうだ」の否定形式「(し) そうない」「(し) そうもない」「(し) そうにもない」について、庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2000)は、「動きや変化を表す動詞に付く場合は、『～そうにもない』の形を取ります。「に」または「も」を省略した形もある」とし、次の例文を挙げている。

例) 明日までに宿題はできそうにもありません／そうもありません／そうにありません。

また、日本語記述文法研究会(2003)は、「動詞接続の『そうない』と『そうもない』は、後者にいくらか悲観的なニュアンスが感じられるが、明確な違いはない」と指摘している。

由で私はためらっていた。(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)

- (20) 書きたいこと、書くべきことはいくらでもあった。しかし、そのすべてを書き切るためには、一晩あっても時間が足りなさそうだった。(沢木耕太郎『一瞬の夏』)
- (21) 「それは、あの二人が、自殺だけはしなさそうだ、ということなんです」(曾野綾子『太郎物語』)

(17) ~ (21) は、「住んでいる」「越えている」という状態の存在可能性と、「わかつてもらえる」「時間が足りる」「自殺する」という事象生起の可能性が低い様子を表し、「一な(さ) そうだ」は推量または予想を表す。例えば、(18)は三人の米兵の外見などを根拠に、二十歳を越えていないだろうと推定し、「一な(さ) そうだ」は可能性が低いという〈属性による推量〉を表す。また、(20)の場合は、話し手が自分の状況から、もし書きたいことや書くべきことを書き切るのであれば、一晩だけでは時間が足りないだろうと判断し、「一な(さ) そうだ」を使って時間の足りない可能性の〈予想〉を表す。このように、「一な(さ) そうだ」は、話し手が主体の属性または目の前の様子を根拠にして、状態が存在しない可能性、または事象が生起しない可能性があるという〈属性による推量〉、〈予想〉を表す形式である。

3.2.2 「(し) そう に／も ない」の意味

次に、使用率がもっとも高いと言われている「(し) そう に／も ない」の意味を考察していく。次の例文を見ていただきたい。

- (22) プラスチック容器は直径十二～十三センチの筒型をしており、相当しっかりできているのでちょっとやそっとじや開きそうもない。私達はノコギリ

でプラスチック容器を切ることにした。(さくら
ももこ『さくら日和』)

- (23) 芽実との関係もこのままでいいのか考えなければ
ならなかった。どれもこれもほったらかしにして
流れに任せておくことのできそうにないものば
かりだった。(辻 仁成『冷静と情熱のあいだ
Blu』)

- (24) 支店長夫人は、有名校という言葉を強調し、話は
夫のことから子供の学校のことに移り、お喋りは
止みそうもなかつた。(山崎豊子『白い巨塔(四)』)

- (25) ましてや、高価なうえに一点物で、謝っても許し
てもらえそうもない物を失くしてしまったらど
うか。そこまで大変な事になった経験はないと言
う人も多いであろう。(さくらももこ『あのころ』)

(22) はプラスチック容器が開くのが難しいことを示し、(23) は芽実との関係も含めて、流れに任せておくことができるわけがないということを表す。また、(24) の場合は、話題を夫のことから子供の学校へと展開していく支店長夫人の様子から、お喋りはきっと止むことなく延々と続くだろうという予想を表し、(25) は失くしてしまうのは「高価なうえに一点物」であるとすれば、いくら謝っても許してもらえないに決まっている、という物の性質による推量を示すのである。このように、「(し) そう に／も ない」は動詞の表す行為や状態が生じにくい、または生起しない可能性があるという〈予想〉または〈属性による推量〉を表す形式である。そして、以下の例文の示すように、「決して」「とても」などの副詞と共に起ることから、事象が生起しない可能性がかなり高いということを指摘することができる。

- (26) いまでも日に一度は店に顔をだすパオラが言った。

雨はきりもなく降っている。強くはないが、空氣にからまりおちて永遠にやみそうもない雨、世界を檻にとじこめようとするかのような雨だ。(江国香織『冷静と情熱のあいだ Rosso』)

- (27) 私は心から犬を飼いたいと思っているのだが、夫は「ダメだ。生き物を飼うと別れがつらいし自由が制限される。フットワークが重くなるのはいけない」と言い、決して許してくれそうもない。(さくらももこ『さるのこしかけ』)
- (28) 夜が更けるにつれ、寒さはますます厳しくなった。もうとても眠れそうになかった。しかし今目覚めていることが少しも怖くはないのに、私は驚いた。(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)
- (29) 私は土岐さんの人格を今まで、本当に理解していなかったように思った。私は駆けつけて行きたかったが、事件をおもしろがっている新聞記者がまわりにいて、とても寄りつけそうになかった。(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)

(26) (27) (28) (29) は副詞「永遠に」「決して」「とても」と共起するが、それは、「(し) そう に／も ない」はそれに接続する動詞の表す動作や状態がそう簡単には生起しないだろうという意味を表わし、事象生起の見込みはほとんどないということを表すからである。(27) を例にとると、夫の言葉から、いくら犬を飼いたいと言っても絶対に飼わせてもらえないだろうという予想であり、副詞「決して」と「(し) そう に／も ない」との共起は、「(し) そう に／も ない」の表す事象不生起の可能性が非常に高いということを示唆すると言える。

3.2.3 「(し) そうではない」の意味

「(し) そうだ」の否定形として、次の (30) (31) (32) の「(し) そうではない」が挙げられる。

- (30) 「何も、東君が次期教授を決定し、任命するのではなく、教授会で決定するのだから、教授会の選挙の票をうまく、自分の思う方へ操ればいいのじやないか、それが出来なければ、好むと好まざるとにかくわらず、財前に次期教授のポストを譲つて退官する、この二つだな、しかし、財前が教授の椅子につけば、あれほどの奴のことだから、君の思い通りにはなりそうではないね」(山崎豊子『白い巨塔 (一)』)
- (31) 只見掛けたと云うだけのこの二人を取り押さえても、別に役に立ちそうではなく、又荒立てて亀蔵に江戸を逃げられてはならぬと思って、須磨右衛門は穩便に二人を立ち去らせた。(森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』)
- (32) はつきり理由を示さない限り、到底油井は納得しそうではなかった。伊木は、油井を訪ねたことを悔んだ。逆方向の電車に乗ったことを悔んだ。言い難そうに、彼は友人に告げた。(吉行淳之介『砂の上の植物群』) ((6) 再掲)

このタイプの否定形「(し) そうではない」は、「ーではない」という構成要素から明らかのように、否定辞「ない」は「思い通りになりそうだ」「役に立ちそうだ」「納得しそうだ」にかかり、予想していた事象の生起可能性を否定するのである。例えば、(30) の場合は、財前が教授になるとすれば、君の思い通りになるという可能性がなくなり、「君の思い通りになりそうだ」という予想がひっくり返

ることを意味する。言い換えれば、ここでの「思い通りになりそうではない」は、事態が君の思い通りになりそうだったが、今はその可能性はもうないだろう、という考えを示すのである。(31) の「役に立ちそうではな」いは、この二人を取り押さえれば何らかの役に立つだろうといった想定はもう成立しないということを表し、(32) も同様に、油井に納得してもらえる可能性があったかもしれないが、はっきりした理由を示さなければ、現段階では油井が納得してくれるとは考えられず、「(し) そうではない」は事象生起の〈予想の覆し〉を表す。そして、(30) (31) (32) の波線部で示したように、「～ば」「～ても」「～限り」といった条件表現と一緒に表れるのが「(し) そうではない」の特徴としてあげられる。これらの条件表現は、事象生起の可能性の予想を覆すファクターにあたる要素であり、「(し) そうだ」の表す〈予想〉が存在していたことを意味すると思われる。

4. 否定を表わす各形式の共通点と相違点について

以上の考察から分かるように、「(し) そうだ」の否定形である「一な（さ）そうだ」と「(し) そうに／も ない」は、どちらも《事象不生起の可能性》があるという〈属性による推量〉と〈予想〉を表わす。一方、「(し) そうではない」は、事象不生起の可能性ではなく、予想されていた事象生起の可能性がなくなるという〈予想の覆し〉を表し、否定の焦点が「(し) そうだ」に当てられるのである。このことから、「(し) そうではない」は「一な（さ）そうだ」「(し) そうに／も ない」と同じように「(し) そうだ」の否定形ではあるものの、「一な（さ）そうだ」「(し) そうに／も ない」と全く異なる役割を果たす形式であることが指摘できる。

では、《事象不生起の可能性》を表わす点で共通する「一な（さ）そうだ」と「(し) そうに／も ない」は、それぞれの可能性にどのような違いが見られるのであろうか。次の例文を見ていただきたい。

- (33) a 手続きが煩雑で、すぐには出発できなさそうだ。

b 手続きが煩雑で、すぐには出発できそうにない。

((7) 再掲)

(34) a 彼はそんなひどいことを言わなさそうだ。

b 彼はそんなひどいことを言いそうにない。

((9) 再掲)

(33) の場合は、a の場合は出発できない可能性があるが、その可能性が確実ではないため、背後には「もしかして出発できるかもしない」という可能性も考えられる。一方、b の場合はほぼ出発できないといつてもいいような状況であるため、出発できない可能性はかなり高いと言える。(34) も同様に、a も b も「彼はそんなひどいことを言わなさそうだ」という話し手の推測を表すが、a は、例えば初めて会った人としばらく話しただけなど、「彼」のことをそれほど知っているわけではない場合に用いられるのに対して、b は話し手が「彼」のことをある程度知っているような状況でなければ使えない。つまり、a の「言わなさそうだ」は「言わない」可能性を表しているものの、事象の背景には「言いそうだ」「言うかもしれない」という可能性が潜んでいるのに対して、b の「言いそうにない」の背景にはそういういた可能性はほとんどない、ということである。したがって、(33) (34) の「ーな(さ) そだ」と「(し) そうに／も ない」は、それぞれ「出発できる」「言う」という事象の不生起可能性を表すが、a と b の表す可能性の度合いが異なっているのである。次の例文の示すように、「ーな(さ) そだ」に事態の把握が十分ではないといった不確かな状況を表わす表現を加えることができるが、「(し) そうに／も ない」にはこれらの表現を付け加えると適格性が落ちてしまい、不自然になるのである。

(33') a 手続きが煩雑で、すぐには出発できなさそうだけど、
実際のところはどうなんだろう？すぐ出発できち
やったりして。

b ??手続きが煩雑で、すぐには出発できそうにな
いけど、実際のところはどうなんだろう？すぐ出発できちゃったりして。

(34') a 実際はどうかわからないけど、彼はそんなひどいことを言わなさそうだ。

b ??実際はどうかわからないけど、彼はそんなひどいことを言いそうにない。

上記のような違いは、両者の表す《事象不生起の可能性》の度合いが異なっていることを裏付けていると言える。また、次の(35)のaとbの違いからわかるように、確信度の高い副詞「決して」との共起関係にも両形式の違いが反映されている。

(35) a 私は心から犬を飼いたいと思っているのだが、夫は「ダメだ。生き物を飼うと別れがつらいし自由が制限される。フットワークが重くなるのはいけない」と言い、決して許してくれそうもない。(さくらももこ『さるのこしかけ』)

b ?私は心から犬を飼いたいと思っているのだが、夫は「ダメだ。生き物を飼うと別れがつらいし自由が制限される。フットワークが重くなるのはいけない」と言い、決して許してくれなさそうだ。

また、「ーな（さ）そうだ」と「(し) そう に／も ない」の表す可能性の度合いにより、両形式の主体の人称制限に違いが見られることが指摘できる。

(36) a 「わ、私だって、あんな雰囲気は耐えられそうもないわ」(山崎豊子『白い巨塔（一）』)

b ?? 「わ、私だって、あんな雰囲気は耐えられなさ
そうだわ」

《事象不生起の可能性》が確かな場合を表す「(し) そう に／も ない」は、主体に「私」が使えるのに対して、《事象不生起の可能性》の確信度が低い「一な（さ） そうだ」は人称制限がかかり、一人称の「私」は主体の位置にとりにくい。その理由は、人間は基本的に自分のことがある程度わかっていると思われるため、自分のことを述べる際に確信度の低い表現を使うと不自然になってしまうからである⁵。次の(36) b' の示すように、「私」を「彼」に入れ替えることで文の適格性が上がることが両形式の違いを裏付けている。

(36) b' 「彼だって、あんな雰囲気は耐えられなさそう
だわ」

以上の考察から、「(し) そうだ」の否定形である「一な（さ） そうだ」と「(し) そう に／も ない」は、《事象不生起の可能性》を表わす点で共通しているが、両形式の表す可能性の度合いが異なり、「一な（さ） そうだ」は確信度の低い可能性を表すのに対して、「(し) そう に／も ない」は事象の生起が考えられないといった確信度の比較的高い可能性を表す、ということが明らかとなった。

⁵ 事象生起の確信度と人称制限との関係について、「(し) そうだ」の否定形だけでなく、ほかの表現にも見られる。

例) a 私は来週彼女に告白するつもりだ。/*つもりだろう。
a' 田中くんは来週彼女に告白する*つもりだ／つもりだろう。
b 私は寂しい/*寂しいだろう。
b' 田中くんは*寂しい／寂しいだろう。

「一つもりだ」のような意志的動作の遂行決意を表わす表現や「寂しい」のような感情形容詞は、主格に三人称が来る場合は、推量を表す「だろう」と共起できるが、一人称の場合は、自分の決意や感情を不確かな表現で述べるのが不自然であるため、「だろう」との共起ができないのである。

5. おわりに

以上、「(し) そうだ」の否定形を中心に考察してきた。その結果、「(し) そうだ」は《事象生起の可能性》を表すが、その否定形には、〈予想〉〈属性による推量〉といった《事象不生起の可能性》を表す「一な (さ) そうだ」と「(し) そう に／も ない」もあれば、〈予想の覆し〉を表す「(し) そうではない」も見られる、ということがわかった。そして、「一な (さ) そうだ」と「(し) そう に／も ない」は《事象不生起の可能性》を表わすという点で共通しているが、「一な (さ) そうだ」は確信度の低い可能性を表すのに対して、「(し) そう に／も ない」は確信度の高い可能性を表す、ということが明らかとなった。しかし、なぜ「(し) そうだ」の否定形にはこのような意味的な違いが見られるのか、さらに詳しく考察する必要がある。また、「(し) そうだ」と形容詞・形容動詞につく「一そうだ」との関わりについても検討しなければならないが、今後の課題したい。

〈用例出典〉

『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』(新潮社、1995 年)
『あのころ』(さくらももこ、集英社、2004 年)、『体は全部知っている』(吉本ばなな、文春文庫、2002 年)、『恋の魔法』(内館牧子、角川文庫、1994 年)、『さるのこしきかけ』(さくらももこ、集英社、2002 年)、『さくら日和』(さくらももこ、集英社、2007 年)、『砂糖菓子が壊れるとき』(曾野綾子、新潮文庫、1972 年)、『白い巨塔(一)～(五)』(山崎豊子、新潮文庫、2002 年)、『世界の中心で、愛をさけぶ』(片山恭一、小学館、2006 年)、『博士の愛した数式』(小川洋子、新潮社、2005 年)、『ぼくは勉強ができない』(山田詠美、新潮文庫、1996 年)、『冷静と情熱のあいだ Rosso』(江国香織、角川文庫、2001 年)、『冷静と情熱のあいだ Blu』(辻仁成、角川文庫、2001 年)

(実例の場合は、例文の後ろに出典を記した。出典名の無いものは作例である。)

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 川嶽信惠（2002）「シソウダに関する知識と否定文の適格性」
『日本語・日本文化研究』12、大阪外国語大学日本語学科
- 菊地康人（2000）「いわゆる様態の『そうだ』の基本的意味—あわせて、その否定各形の意味の差について—」『日本語教育』107
- 田野村忠温（1992）「現代語における予想の『そうだ』の意味について—『ようだ』との対比を含めて—」『国語語彙史の研究』12、和泉書院
- 豊田豊子（1987）「『そうだ』(様態)の意味・用法と否定形(1)」
『日本語学校論集』14、東京外国語大学
- 豊田豊子（1998）「『そうだ』の否定の形」『日本語教育』97
- 仁田義雄（1999）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 森田富美子（1990）「いわゆる様態の助動詞『そうだ』について—用法の分類を中心に—」『東海大学紀要(留学生センター)』10

付記：本稿は、台湾行政院国家科学委員会補助専題研究計画「現代日本語における否定文の研究—ヴォイスを中心に—（計画番号：NSC 101-2628-H-032-002-）」による成果の一部である。

References

- Iori isao • Takanasi sino • Nakanishi kumiko • Yamada toshihiro
(2000) *Shokkyu wo osieru hito no tame no nihongo bunpou handobukku*, Suriieinettowaaku.
- Kawashima nobue (2002) “sisouda ni kakawaru chisiki to hiteibun no tekikakusei” *Nihongo • Nihonbunkakenkyu*, 12, Osaka gaikokugo daigaku nihongo gakka.
- Kikuchi yasuto (2000) iwayuru youtai no “souda” no kihonteki imi : awasete sono hiteikakukei no imi no sa nituite.
Nihongokyouiku, 107.
- Tanomura tadaharu (1992) gendaigo niokeru yosou no “souda” no imi nituite : “youda” tono taihi wo fukumete. *Kokugogoisi no kenkyu*, 12, Izumi shoin.
- Toyoda toyoko (1987) “souda” (youtai) no imi • youhou to hiteikei (1), *Nihongogakkouronshu*, 14, Tokyogaikokugodaigaku.
- Toyoda toyoko (1998) “souda” no hitei no katachi,
Nihongokyouiku, 97, Nihongokijyutubunnpookenkyukai
(2003) *Gendainihongobunpou 4 dai8bu modariti*, Kurosio shuppan.
- Nitta yoshio (1999) *nihongo no modariti to ninshou* ,
hitsujishobou.
- Nihongokijyutubunnpookenkyukai (2003) *gendainihongobunpou4, dai8bu modariti*, kurosio shuppan.
- Morita fumiko (1990) iwayuru youtai no jyodousi “souda” nituite : youhou no bunrui wo chusin ni. *Toukaidaigakukiyoyu (ryugakusei sentaa)*, 10.

※2013年8月31日受理 2013年10月26日審査通過

編集委員會

召集人 曾秋桂

副召集人 許均瑞 羅曉勤

編集委員 林雪星 落合由治 邱若山 王世和 孫寅華
楊錦昌 林青樺 賴錦雀 吉田妙子 范淑文
內田康 斎藤正志

執行編輯 落合由治

助理編集 施信余 劉于涵

今号は、投稿論文の外部審査の結果、全投稿 22 本中、16 本が掲載された。今号の掲載率は 72.7% で、すべて学術論文である。

台灣日本語文學報 34

出版者：台灣日本語文學會

理事長 曾秋桂

會 址：25137 新北市淡水區鎮英專路 151 號

淡江大學日本語文學系

傳 真：(+886) 02-2620-9915

網 站：<http://taiwannichigo.greater.jp/>

法律顧問：劉于萱律師

出版日：2013 年 12 月 31 日

ISSN 1727-2262

發行所：致良出版社有限公司

JOURNAL OF JAPANESE LITERATURE & LANGUAGE IN TAIWAN 34

CONTENTS

Foreword

Tseng, Chiu-kuei	The 34 th publication foreword.....	1
------------------	--	---

Research Articles

Tseng, Chiu-kuei	An argument on "all the children of God dance" by Haruki Murakami seen as a rite of passage: As an equipment of the tale facing a trauma.....	3
Uchida Yasushi	The evaded rite of passage:A study on Haruki Murakami's A Wild Sheep Chase.	27
Yoshida Taeko	The Sign from the Peculiar World in "The [φ/Second] Bakery Attack": A failed Initiation and Messages from the Nineteen Seventies.....	53
Toda Kazuyasu	The defamiliarization of "YU-BE NO KUMO":The style that Sho-no Junzo has established.....	77
Wang, Yu-hsin	Cultural interpretation perspective on Nagai Kahu's American Stories: Cross culture experiences from an urban observer.....	103
Lai, Yun-chuang	Tokatonton of Dazaiosamu:"Worries" of irony.....	127
Huang, Chih-huei	Tragic Heroes Represented in the Novels of Tsuga-Teishou and Kyokutei-Bakin: Focused on Stories of Reincarnation and Escape to the New World	153
Lai, Jiin-chiueh	A Study of Collocations in Japanese by '春' '夏' '秋' '冬': A view from Contrastive Linguistics Research of Chinese and Japanese	177
Lin, Chin-hwa	A Study of the Semantic Analysis of "(shi)soda": On the Negative Sentences	203
Ochiai Yuji	On the quotation expression in characteristic on genre:The expression structure and its function in newspaper editorials.....	227
Huang, Yu-han	A Pragmatic Analysis of Japanese Non-assertive Expression "souda"	253
Wu, Chin-fang	The research of 「kedo」 in spoken language: Put emphasis on 「Form」 , 「Pragmatics」 , 「Politeness」	279
Fukao Madoka	A Study on Modality Expression Kedo: Based on a Japanese Corpus.....	305
Tung, Chuang-ching	A Discussion on Postmodern Abilities and Reflexivity from the Change of Japanese Perspectives: A Case Study of Labors and Education.....	331
Nakazawa Kazuaki	Social Network Sites to Practice Writing and Reading in Japanese: A Case of Facebook.....	355
Huang, Shih-ying	A contrast study of Taiwanese vs. Japanese in hiding their disagreement: The objects are university female students.....	381
Activities Report		
	Abstract of report in regular meetings.....	407

December 2013

JAPANESE LANGUAGE & LITERATURE ASSOCIATION OF TAIWAN